

# Eureka X

六年制通信 No.5 令和4年5月6日(金)号

## 身口意

よく野球で「走攻守」と言いますね。走攻守の三拍子がそろった名選手などと、よくイチロー選手は言われていました。打って守って走ってなら「打守走」なのでしょうが「だしゅそう」では語呂が悪すぎますから、走攻守になったのでしょうかね、きっと。考えてみれば私たちが普段使う語彙の中にも三つで一括りに扱われる言葉がよく出てきます。何となく言いやすいのでしょうか。そう言えば、大体うちの校訓が「真剣味」でした。これは皆さんよく知っての通り、教育の三本の柱である知育体育徳育（これも知体徳の三文字で一つだよ）を表しています。真、すなわち知育に真剣味たれ、剣、すなわち体育に真剣味たれ、味、すなわち徳育に真剣味たれ、ということです。平成6年に統合するまで三重高校は男子校、今の三年制が勉強しているところには松阪女子高校の校舎がありました。第2体育館は女子高のグラウンドがあったところです。女子高は「真剣味」よりも「真善美」でした。グリーンプラザに立って第2体育館の方を向き、右手を見ると旧女子高の記念碑があります。一度見てごらんください。こんな話、わかる先生も少なくなりました。私が初めて教壇に立ったのは男子校でした。男ばかり。当たり前ですけど。担任のクラスには52名の男子（柔道部や相撲部のでっかいのが何人もいました）がいて、毎日楽しかったなあ。

さてちょっと脱線しましたね。話を戻して…。キリスト教では「三位一体」（これちゃんと読めますか。「さんいいたい」ではないよ）とあって、父と子と聖霊は一体のものだという考え方をします。やはり三つで一つという発想ですね。言いやすいのかなあ。他にもたくさんありそうですね。思いつくまま挙げてみましょう。

心技体。これもよく耳にしますね。心技体のバランス、などというようです。スポーツの場でよく使われますが、このうちどれか一つでもバランスを崩すと試合には勝てない、そんな話をされるようです。

気剣体。これは剣道です。気剣体の一致と言います。気は気合十分かどうか、剣は竹刀の正しい打突部位で打っているかどうか、体は打突するとき正しい体勢になっているかどうか、また残心をしているか、などが全て揃って一本なのですね。ただ面、小手、胴に竹刀が当たれば一本ではないわけです。

知情意。私たちの大切な心の働きを三つの言葉で表したものです。すなわち知性感情意志です。これもバランスが大切だという文脈で使われますね。漱石の『草枕』の冒頭は知ではなく智ですが、知情意といえ「智に働けば角が立つ、情に掉させば流される、意地を通せば窮屈だ」を思い浮かべる人もいるでしょう。坂道を登りながら

こう考えた漱石は、だから人の世は住みにくいと愚痴をこぼします。昔どこかの大学で「智に働けば…」の英訳が出題されていましたよね。こわっ。

運鈍根。これは昔も今も学校の先生方が大好きな言葉ですね。私は何かの本のタイトルでこの言葉を知りました。運は、人生には運の善し悪しがあるというそのままの意味でしょう。鈍は鈍感という意味ではなく、才気走らないこと。小賢しさがなく地道な努力のできることを言います。根はもちろん根気のよいこと。継続は力なり、です。如何にも先生方の好きそうな言葉でしょ。運のことについて言えば、何となく人間の努力ではどうしようもないように思えますが、地道な努力を根気よく続けている人に幸運の女神が微笑まないはずはない、私はそう考えています。

身口意。私はこの「しんくい」（ちゃんと読めましたか？）が好きです。体と言葉と心が揃っていることが大切だということです。「言葉」が入っているところが気に入っています。仏教の読経（これも読めましたか。「どくきょう」ではないよ）の姿を言っているのだと思います。姿勢を正して手を合わせ、心静かにお経を唱えるのですから確かに身口意が揃っています。しかしお経ではないけれど、君たちも一日に身口意が揃っている瞬間を普通は6回経験しているのですよ。どんなときに手を合わせていますか。そうです。「いただきます」と「ごちそうさま」の時です。嫌な心で言う人はいませんし、姿勢を正しますよね、自然と。食事をいただける感謝を口に出しています。ほら、身口意が揃っているではないですか。これからは少し意識して、これまで以上に丁寧にゆっくりと「いただきます」と「ごちそうさま」をしましょうね。

速旨安。あの牛丼チェーンならこれかな。「そくしあん」ですかね。あはは。

### 今週のおすすめ

・薬丸 岳 『刑事弁護人』（新潮社）

薬丸さんは江戸川乱歩賞を獲得した『天使のナイフ』を読んで以来のファンです。中でも『刑事のまなざし』が好きで、主人公の夏目信人の出てくる作品は今でも時々手に取ります。薬丸さんは様々な不幸を設定して物語を紡ぎ、夏目信人という刑事の目を通して、私たち読者にその不幸に正面から向き合わせます。そしてその不幸の奥には悲しい真実がある、そういう設定が多い気がします。『刑事のまなざし』をはじめ、夏目信人のシリーズは4作あります。まずは『刑事のまなざし』を読んでみて、何ならその中の「オムライス」だけでも読んでみて、面白かったら全作を読んでみてはいかがでしょうか。期待外れでした、なんてことはないと思いますよ。

今回の作品は現職の女性警察官による殺人事件。元警察官で弁護士という風変わりな男（全国にこんな経歴の人はいないと思いますが、この人は非常に優秀です）とまだ若い女性弁護士（この弁護士、かなりポンコツなんですけど）が事件の真相に迫る物語です。犯人は何かを隠している。明らかに嘘をついている。真相に近づきそうになる弁護士たちを解任しようとさえする。何のための嘘か、自分のためか、誰かをかばっているのか、最後の最後に真実が明らかにされるまで十分に楽しめますよ。

BGMは Blondie の *Heart of Glass* でした…。